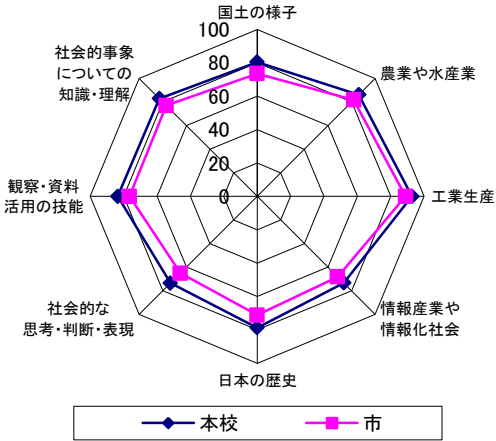


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	80.4	73.6	76.2
	農業や水産業	86.1	81.9	77.5
	工業生産	92.8	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	73.3	68.2	61.0
	日本の歴史	78.8	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.5	65.1	62.1
	観察・資料活用技能	83.6	76.5	75.2
	社会的事象についての知識・理解	82.9	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は市の平均を6.8ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○自然災害について理解しているについての設問では、市の平均を14.8ポイントとはるかに上回っている。 ●主な国の名称と位置を理解しているかの設問では、市の平均を4.1ポイント下回っている。	・環境に関する学習では、各自がテーマを設定し、図書資料やインターネットを活用しながら調べる活動を引き続き取り入れるようにする。また、防災訓練などの実体験を継続し、自然災害に対する意識をより高めていけるようにする。 ・今後も、地図などを積極的に活用し、日本の位置や周辺の様子だけでなく、各国についても確認する機会を設けるようにする。
農業や水産業	平均正答率は市の平均を4.2ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○稲作における食の安全確保の工夫や米の輸送販売の費用の資料読み取りでは、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ●食料の中には、外国から輸入しているものがあることを示す資料について考えることが課題とみられる。	・新聞やインターネットの記事を提示して話題にすることで、日本の食料生産に対する意識を高められるようにする。 ・資料を読み取るだけでなく、読み取ったことから考察したり話し合ったりする学習を多く取り入れ、学習内容を活用する力をつけられるようにする。
工業生産	平均正答率は市の平均を3.9ポイント上回っており、学習内容は概ね身についているといえる。 ○工業生産に従事している人々による環境保全への取り組みについての設問では、市の平均を7.6ポイント上回っている。	・活用力をさらにつけられるよう、工業生産についての話題を提供し、生活の中で自分たちの生活と工業がどのように結びついているのかを意識させるようにする。 ・資料や地図の読み取りが正しくできるように繰り返し指導する。
情報産業や情報化社会	平均正答率は市の平均を5.1ポイント上回っており、学習内容は身についているといえる。 ○放送、新聞などの産業の役割や責任の大きさについて考える設問では、市の平均を10.6ポイント上回っている。 ●情報ネットワークと国民生活のかかわりについて資料を読み取って考える設問では、市の平均を0.2ポイント下回っている。	・情報の利用の仕方については、学級活動や情報機器を利用する時などと関連付けて、継続的に指導するようにする。 ・活用力をさらにつけられるよう、情報ネットワークについての話題を提供し、生活の中で自分たちの生活と情報がどのように結びついているのかを意識させるようにする。
日本の歴史	平均正答率は市の平均を7.7ポイント上回っており、学習内容はよく身についているといえる。 ○すべての項目で市の平均正答率を上回っている。特に、聖武天皇に関する資料の読み取りでは、市の平均を14.6ポイントとはるかに上回っている。 ●大日本帝国憲法とドイツの憲法を比較して共通点を読み通り、大日本帝国憲法の特徴を表現する設問では、正答率が60.0%とやや低かった。	・絵や写真などの資料を教室に常置したり、歴史上の偉人に関する図書を常置するコーナーを設けて身近に触れられるようにしたりすることで、児童が歴史についてさらに関心を高められるような環境をつくる。 ・大日本帝国憲法や日本国憲法についての理解を、さらに深められるように指導する。